

知事との県民対話集会（富士見町）概要

- ・開催日時 令和5年6月2日（金） 午後3時30分から午後5時まで
- ・会場 富士見町コミュニティ・プラザ 2階大会議室
- ・参加者 県民75名、名取富士見町長、阿部知事、宮原諏訪地域振興局長 他
- ・テーマ ・中山間地域の農業の振興 ・リニアの開通を見据えた新たな生活圏域づくり

・主な発言（要旨）

【参加者】

・農林水産省の水田活用直接支払交付金について、5年に一度の水稲作付け又は1か月以上の水張りを行わないと交付金の対象から外すという大幅な見直しにより、町の農業者から営農継続に不安の声が上がっている。水田活用直接支払交付金に代わる交付金を市町村と共同で創設願いたい。農家の高齢化や飼料価格高騰により、農業を取り巻く環境は大変厳しい状況。水張りができない農地は交付金がもらえないため、多面的機能を有する水田を守っていくことができず、耕作放棄地が激増することが予想される。

【参加者】

・水田活用直接支払交付金の見直しは、非常に大きな問題である。県独自の施策として中山間地の農地、景観、環境保全に対する支援策を検討いただきたい。富士見町のような高冷、中山間地の条件の悪い農地では、気候的な問題もあり小麦や大豆のブロックローテーションはできない。そば、牧草、花き、果樹、野菜と多岐にわたって転作を進めてきたが、町の特産のカーネーション、菊等については、パイプハウスの仕様のため、水張りなどは不可能であり、高地のブルーベリーも同様に不可能。休耕地の解消を担っている酪農家も飼料価格高騰等で経営を圧迫されており、水田活用の交付金で経営を成り立たせている状況である。

【参加者】

・水田活用直接支払交付金の見直しに関し、1か月水を張るだけでも野菜やそばには悪い影響しかない。

【知事】

・県としてしっかり踏み込んで検討していかなければという問題意識は共有させていただきたい。
・農林水産省へ要望に行くときには皆さんの声も一緒に伝えられるようにと考えている。
・一方で、そもそも農業、農村をどのように維持させていくべきなのかということについても、併せて考えなければならないと思う。

【松崎農業農村支援センター所長】

・昨年度、農林水産省の担当室長や市町村、農業団体の皆様と一緒にWeb会議を行った。県としては、国に対して、この交付金を使って中山間地の田んぼが荒れないように今まで取り組んできた市町村や農家の皆様の考えをよく汲んで、少なくともその対策を向こう5年間は維持をするべきだということと、水田活用とは別に、食料自給という意味で、大豆、小麦、そばのように外国産の安いものと対抗しないといけない作物は、それ相応の所得補償をする制度があっべきだということをしり入れていく。

【参加者】

- ・富士見小学校6年1組は総合的な学習の時間でリニア中央新幹線が開通することを学習した。富士見町のこれからの可能性について自分たちの考えを発表したい。
- ・リニア中央新幹線が開通すると富士見から山梨県駅を通過して東京品川まで約70分で行くことができ、また、東京からも同じ時間で来ることができる。富士見町の可能性が広がる。
- ・まず、東京でやってみたいことを考えたところ、東京の観光地に行きたい、東京の大学に進学したいなどの意見があった。
- ・次に、リニアで人が訪れそうな富士見町の素敵な場所を紹介すると、自然豊かできれいな八ヶ岳があり、富士山もきれいに見える。また、スキーやスノーボードが楽しめる。料理の美味しいお店も複数ある。
- ・交通安全プロジェクトとして、昨年の5月から全校に交通安全を呼びかけている。富士見と山梨県駅をつなぐ公共交通機関としてリニア専用バスがあるとよいと思う。自動運転で専用の道路を通ことで、交通事故を抑制することができる。子どもだけでもお年寄りも年齢に関係なく乗れる安心安全な公共交通機関として利用してもらえと思う。

【知事】

- ・今はAIがいろいろなことをやってくれてるような時代になってるし、発表の中でもあったように、自動運転も実用化に向けた取組が進められてきている。皆さんがどういう社会にしたいかということにストレートに考え、この研究プロジェクトを通じて学んだことを主体的に考えていてもらいたい。
- ・皆さんは将来富士見町と東京のどちらに住みたいと考えているか。東京に住みたい人はその理由も教えてほしい。

【参加者】

- ・東京に住むとテレビに出ることができる。
- ・東京にはいろいろなものがある。

【知事】

- ・若い人が住み続けたくなる長野県にするのが私の仕事。「県でこういうことをやらないから住みたくないんだよ」という提言をしてくれると、一緒になって真剣に考えるので、ぜひお願いしたい。

【参加者】

- ・町内でコワーキングスペースを運営して8年目になる。最近では移住者の方も増え、登録者数は約1,200名くらいである。富士見を生活のベースにしつつ、仕事でたまに関東圏に行く人たちが私の周りにも多い。リニア開通にあたり、山梨県駅側から富士見に来る際のアクセスのよさが必要。逆に何もないと山梨県側に住む人が増えて、そこでストップしてしまうのではないかと思う。長野県として都心に一番近い玄関口の富士見町の交通の便をよくしていくということに関し、どのような考えを持っているのか。

【知事】

- ・県としては長野県駅、山梨県駅、岐阜県駅の3駅が重要だと話している。県としての一体性や特色づくりをしっかりと進めていくという側面と、それぞれの駅との二次交通を含めた連携を進めていくという側面がある。この4月に交通政策局をつくったので、今後は、地域の移動やリニア駅との結節の利便性向上をしっかりと考えていかないといけないという問題意識を持っている。地域のまちづくりについては、UDC信州（信州地域デザインセンター）や都市計画の専門家の大学の先生等の知恵を結集し、市町村と一緒に考えていきたい。

【参加者】

- ・質問を2点お願いしたい。1つは、交通の将来について県知事レベルで議論していることはあるか。もう1つは、UDCの取組について詳細をお聞きしたい。

【知事】

- ・リニア中央新幹線建設促進期成同盟会には沿線の全都道府県が加盟しており、静岡の問題をJR東海と静岡県の問題としてだけでなく、皆で共有することになっている。リニアに合わせて道路整備も進み各地の行き来が便利になるので、全体を見据えた地域間連携をどうするかという話などを行っている。次のステップとして個々の駅との交通について交通事業者とも話していかないといけないと考えている。
- ・UDCについては、例えば、しなの鉄道沿線では、シェアサイクルについて沿線市町村と一緒に取り組む事業をUDCが先導している。また、まちづくりのブランドビジョンをどうするかといったこともUDCでアドバイスできる。地域でどのようなことを考えたいかという内容に応じ、しっかりサポートしていきたい。

【参加者】

・リニアの工事で怪我人等が出ている点とリニアの開通により原子力発電所の再稼働が予想されていると聞いたが、どう考えているか。

【知事】

・JR東海が発注している工事の中で事故が起きており、県としても安全性の確保を強く求めており、また、軽微な事故でも発表するよう伝えている。リニアをつくるから原発を増設するという話は直接的にはないが、電力消費が大きいから省エネルギーに反するのではないかという議論はある。このことはJR東海も理解しており、できるだけエネルギー消費を抑える工夫などを行っていると認識している。これらの問題をどのレベルで許容するかはいろいろな見解があるが、県としては一定程度許容しながらも、JRに対し、もっと事故を無くしてほしい、エネルギー消費を抑制してほしいとお願いしながら対応しているところ。

【参加者】

・（先ほどの話を聞いて）東京に住んで富士見へ来る可能性と、富士見に住んで東京へ通う可能性のどちらに共感したか。

【知事】

・満員電車に乗りたくないなので、富士見町に暮らして東京に通学、通勤する方を選ぶかなと思う。これだけ便利になって仕事もだいぶリモートでできるようになった。個人的には、富士見町のような自然豊かなところで暮らして、遊びに行くときにリニアで行けばいいと思う。

【参加者】

・富士見から山梨県駅までの交通手段として、空を使って行けるようにしたい。

【知事】

・空飛ぶ車については大阪万博で様々な技術を発表する形で競っている。長野県は山や谷が多くあり道路をつくるにしても限界がある。これ以上道路をつくって便利にしましょうということが難しい中では、空飛ぶ車にはすごく期待している。県のDX推進課でも、空飛ぶ車の研究開発を行っている企業の人たちと一緒に、長野県のフィールドで様々な実験ができないかを考えているので、そういう発想を大事にしてほしい。